

2012.7
No.9
盛夏号

座光寺便

信州飯田 麻績の里

麻績の里 座光寺便 盛夏号

平成24年7月発行 ■麻績の里ふるさと応援倶楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内) 長野県飯田市座光寺2535 TEL.0265-22-1401

豊かな湧水の象徴であった恒川清水。昭和50年代までは豊富な水量を誇り、広く生活に利用されていた



豊富な水を利用した民家の池。清冽な水の中を鯉が泳ぐ

座光寺には数多くの清水が散在しています。恒川遺跡は豊富な清水を中心に、古代の役所が置かれました。水に恵まれていたため、古くより人が住み着いたと考えられています。

水は農業、特に米づくりに欠かせません。稲作が発展し大規模化してくると、清水だけでは事足りず、ため池や井水、そして貫水路が造られました。

上水道の普及に伴い、湧水は昔ほど必要不可欠なものではなくなりました。しかし座光寺には、湧水を利用した暮らしや生業が今も健在です。

座光寺 水紀行

ホタルの保護活動

水辺の広場委員会

豊富な清水が湧く白山下一帯は、ホタルにとって理想的な環境といわれます。きれいな水はもちろん、ホタルが身を隠す草むらが西斜面にあり、天竜川沿いの水田地帯は明かりもなく、自由に飛び回ることが出来ます。以前からホタルは生息していましたが、4年ほど前、清水が流れる沢に石灰岩を置き、保護活動が始まりました。これは水に、カワニナが好む石灰分を含ませるため。カワニナはホタルの餌になります。

保護活動に取り組んできた委員の一人である今村作衛さん(清水)は、「名所にするのではなく、自然な形で残したい」といいます。ヘイケもゲンジも両方が見られ、毎年6月末にはホタル観察会も行われます。



麻績の里 座光寺便 街角探訪

お客さまに喜ばれる店づくり

割烹食事処 ふじ松

元善光寺にほど近い旧国道脇に立つ「ふじ松」は、大きな本棟造りが目印の割烹です。昼間は元善光寺参詣者の食事処、夜は地域の集まりなどで賑わっています。

昭和53年に元善光寺駅前通りで開業。国道バイパス開通後の62年に現在地に移転しました。現在は二代目店主の加藤寛志さんが切り盛りしています。

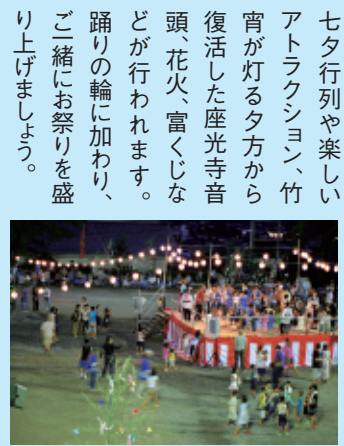
お薦めは創業当時の味を継承するうなぎ料理やかつ鍋定食など。宴会のシメに出される醤油味の焼きおにぎりも人気の一品。「伝統を守りながら、時代にあつたものも積極的に取り入れ、お客さまに喜んでいただける店にしていきたい」と話しています。



割烹食事処 ふじ松
飯田市座光寺3620-3 水曜定休
TEL.0265-23-0726

お知らせ

座光寺夏祭りがやってくる



ふるさとバック
夏の味覚満載便
2,000円
(送料別)



「ふるさとバック」は旬の座光寺農産物の詰め合わせ。今回は梨など、夏のおいさがいっぱいです。

- お申し込み先 座光寺自治振興センター内 麻績の里ふるさと応援倶楽部 (TEL.0265-22-1401・FAX.0265-22-1475) E-mail: zakouji@city.iida.nagano.jp
 - お申し込み締切 平成24年8月31日
 - お届け時期 平成24年9月中旬
- ※代金は商品到着後にお支払いください。

↓ 金魚はきれいな湧き水を利用した池で飼われている



◆養鯉の時代
座光寺の養鯉業は江戸寛政年間（二七八九～一八〇〇）にまでさかのぼります。北原家の先祖・北原林蔵が、段丘崖下の湧水を利用して飼いはじめたのが最初とされています。明治になると養蚕業の隆盛から、さなぎを飼料に自家飼いが流行しました。養鯉の最盛期は昭和40年前後で、養鯉家をつくる水産組合の会員は50軒に上っていました。



←金魚の出荷作業

金魚の出荷作業
金魚はきれいな湧き水を利用した池で、数種の金魚が大切に育てられています。県内では座光寺と松尾（飯田市）が金魚の代表的な産地になっています。

◆金魚の養殖へ
金魚の養殖は養鯉業が最盛期の昭和40年ごろから始まりました。米の減反に伴い、鯉に代わる養殖を模索する中で、座光寺の松村茂男さんが東京から親金魚を購入して始まりました。金魚は動きが少なく汚れに敏感なため、養殖は水がきれいなところでないとできません。また技術的にも難しく、何より経験が重要だといわれます。現在は豊かな湧き水を利用した池で、

豊かな湧水がもたらした 養鯉と金魚



ちりゅう
鯉と鮒の神様か？ 池鯉鮒大明神

座光寺保育園駐車場の一角に小さな社殿があります。ここに祀られているのは池鯉鮒大明神。鯉と鮒の神様にも思えますが、詳しいことはわかりません。江戸の安政年間（1854～59）に始まった知立神社（愛知県知立市）への「知立講」が起源だとされており、安政3年の分霊を記した史料が残されています。

竜西一貫水路の水はどこから？

竜西一貫水路は昭和17年～44年の長期にわたり造成され、完成しました。水田の水を得るための、大きな井水といえるものです。

この水路は、南向発電所（中川村）で放水された水を導水しています。天竜川の東にある発電所から、川の下をサイホンで竜西に引水し、松川町から飯田市川路まで、総延長24kmの水路です。さらに南向発電所で使う水は、駒ヶ根市の吉瀬ダムから、約12kmの水路を通り運ばれています。吉瀬ダムが別名で南向ダムと呼ばれるのはこのためです。



吉瀬(南向)ダム(駒ヶ根市)



竜西一貫水路



南向発電所(中川村)

◆恒川清水 ①
古代、この清水があつたことで伊那郡衙（役所）が造られたといわれています。付近からは古代の木製祭祀具や木簡が出土しました。
バイパス道路工事の後、水脈が変わり、かつての勢いは見られませんが、し円形の井とその周囲は丁寧に石積みがなされ、井戸中央



恒川清水

◆佐々木さん宅の清水 ②
現在もきれいな水がこんこんと湧いています。季節によつて多少細くなることはありますが、これまで涸れたことは一度もありません。池で鯉を飼い、家事用にも利用しているといっています。
部には水神が祀られています。人々の生活を潤してきた様子がうかがえます。



佐々木さん宅の清水



座光寺下段地域 清水マップ

◆山神の清水 ④
ここも南大島川の水が伏流水となつて、扇状地末端から湧出していると考えられます。現在も水量は豊富で、きれいな水を好むクレソン（オランダガラシ）が自生しています。



白山下の清水群



山神の清水